

### Ⅲ 総括

「自己評価マニュアルー自己評価 21 対応ー平成 21 年 5 月版」に則り、自己点検・評価を実施した。総合的に、本学における 6 年制薬学教育は、提示された評価基準の多くをクリアすると判断され、良質な薬剤師養成教育が進行していると評価される。しかしながら一部に評価基準を十分に満たしていない点も見出され、今後その改善に向けた取り組みが必要である。

特に優れた点ならびに改善を要する点を以下にまとめる。

#### 特に優れた点

- 1) 薬学部の教育理念に基づいて設定された教育目標を達成するために、薬学教育モデル・コアカリキュラム及び実務実習モデル・コアカリキュラム以外の専門教育が全学年にわたって多数配当されている点。
- 2) 問題解決能力・研究能力の涵養に向けた教育科目として 2～4 年次に「基礎薬学研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」（自由選択科目）を設け、学生-教員のマンツーマンでの調査・研究指導を通して、学生のコミュニケーション能力・プレゼンテーション能力、調査・研究能力など、「科学者としての薬剤師」の能力養成を低学年から進めている点。
- 3) 薬学部の教育理念の一つである「地域社会への貢献」をめざして、地域医療や在宅医療を視野に入れた福祉系科目（老人福祉論、在宅ケア論、地域福祉論、医療福祉論、医療福祉活動演習など）を多数配当し、「地域社会に貢献できる薬剤師」の養成を推進している点。
- 4) 多様化した高校教育プログラムにより入学時に学生間で差が生じている基礎学力を把握するために化学・生物の「入学時テスト」を実施し、基礎学力が不十分な学生を対象に、1 年前期に「基礎化学」、「基礎生物」などの補正授業を配当している点。
- 5) 2～4 年次にリメディアル学習として「薬学特別演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を設け、また 3 年次編入生のための補習授業及び実習を設け、専門科目における学生の学力向上を図っている点。
- 6) 年代に偏りのない教員組織を整えて、分野間の連携を密にしながら教育・研究に取り組んでいる点。
- 7) 共用試験 CBT に備えて学内に WEB による独自の自学システムを構築し、高い教育効果（平成 21 年度において受験者全員が本試験で合格）を挙げている点。
- 8) 充実した設備を持つ臨床実習室で高度な実務実習前学習を行い、高い教育効果を挙げている点。
- 9) 多彩な生涯学習事業を通して、卒業生や職能人の生涯研修ばかりでなく、地域住民の保健・福祉にも寄与している点。

### 改善を要する点

- 1) 6年制教育の進行に見合った学内施設(講義室数、研究室収容スペースなど)の整備が十分ではないため、今後の6年制教育プログラムの推進に支障が懸念される。
- 2) 実務家教員の医療施設(病院・保険薬局など)における自己研修システムが、教育に時間がとられるため、一部の実務家教員のみに対応に終わっており、実務家教員としての教育力の維持が困難になるおそれがある点。
- 3) 国外提携大学との国際交流が停滞している点。
- 4) 薬学部の教育理念や研究業績をより広く公表するために、ホームページの充実を図る必要がある点。